平成29年度　　県立水戸高等特別支援学校　自己評価表　　［別紙様式２］

目指す学校像	〇就労を目指し，自己実現のできる学校 〇無限の可能性へチャレンジできる学校 〇学ぶ喜びを感じ，感動できる学校 ＜2017生徒・教職員共通スローガン＞ 「挑戦・感動　そして　笑顔」 「Keep On Smiling 」&「Be a (role) Model 」 & 「Only One In Japan」 （笑顔で行こう）　（お手本になれ）　（日本でただひとつ）

昨年度の成果と課題	重点項目（学校組織目標）	重点目標	達成状況
・教育課程の実施状況や生徒の実態の変化等から年間指導計画を見直し，評価基準に基づいた指導を行っている。働き続けるための力を育成し生活場面での般化のため，過去３年間実施してきた「道徳」と「ジョブスタディ」の授業研究を基に，専門教科の中で実践・検証を行った。自立活動の視点を取り入れた授業実践が課題である。 ・７つの運動部と４つの文化部の11の部活動編制で全教員を顧問として配置し指導を行っている。働き続けるための体力の向上，特体連，ゆうあいスポーツ，全スポ，パラリンピックに向けた競技力の向上，高文連に向けた，自己表現できる芸術・文化的活動の充実が課題である。	1　社会生活・職業生活に必要な学力や体力の向上	①　個別の教育支援計画や個別の指導計画の活用 ・合理的配慮の研修 ②　個に応じた教科指導等の充実 ・指導内容･板書･教材の工夫等 ③　ジョブスタディと専門教科の連動 ・生徒の主体的な取り組み ・授業研究，自立活動の視点 ④　働き続けるための体力の向上及び部活動の充実 ・体力作り及び競技力の向上（保健体育の授業，特体連，ゆうあいスポーツ，全スポ等） ・自己表現できる芸術文化活動（高文連等）	B
・工場方式による校内実習，より多くの職種を経験する現場実習など，自分にあった職業選択ができるよう多様な実習を実施し，就職希望者全員の就職を達成した。 ・専門教科においてクリーニング師の国家資格，ガス溶接技能講習，農業検定，被服検定等を行っている。 ・就職率は向上しているが，離職をしない，「働き続けるための力」の育成を目指した，学校教育全体を通じたキャリア教育をさらに進める必要がある。職場開拓のさらなる推進と職場定着までの継続した卒業生支援が課題である。	2　職業生活に必要な基礎的・基本的知識及び技術・技能の確実な習得	⑤　キャリア教育を推進し，就労100%達成を実現するための職業教育や進路指導の充実 ・職場開拓,ｼﾞｮﾌﾞﾏｯﾁﾝｸﾞ,情報の共有 ・卒業生支援，進路だよりの発行等 ⑥　現場実習・校内実習の充実 ・２年生の現場実習の見直し ⑦　各種検定(校内外)，技能競技大会や各種資格・技能検定への挑戦	A
・「歩く会」「集団行動・カラーガード」「クラスマッチシリーズ」「光陽祭」等の感動的な活動をとおして，自己肯定，自己有用感の育成を図る必要がある。 ・「おはようタイム」や「生徒会活動」，自治会活動等，生徒主体の特別活動のさらなる推進を図る必要がある。 ・対応検討会議や校内支援連絡会議，校医の精神科医を招聘し支援会議を開催した。スピード感のある校内支援体制の推進が課題である。 ・寄宿舎では，「マイタイム」，「アパートタイム」，「グループホームタイム」，「生活スキル検定」に取組み，自己管理能力の育成を図った。また，教室のロッカーの鍵を貸与し，貴重品の自己管理を行うようにしている。 ・学校と家庭との連携を密にし，さらに自己管理能力の向上及び定着を図る必要がある。	3　社会人・職業人として求められる態度や規範意識などの向上	⑧　信頼関係を基盤とした協力し合う心や挑戦する心，自律心などを育てるための体験的な活動の充実 ⑨　主体的な特別活動の推進 ・おはようタイム･生徒会活動・委員会活動・自治会活動等 ⑩　スピード感のある校内支援体制の推進 ・トーキングタイム・校内支援会議・生徒指導対応検討会議・ケース会議等 ⑪　寄宿舎における自己管理能力の向上及び定着 ・マイタイム・グループホームタイム・アパートタイム・生活スキル検定と家庭生活との連動	A
・毎週金曜日の職員清掃，学期1回の職員大掃除を実施している。安全点検の充実と４S(整理・整頓・清潔・清掃）の徹底に努める。 ・学校，寄宿舎において，様々な想定や時間帯に防災訓練の実施やヘルメットを携行させることなどにより，災害時の安全，防災意識を常に高めている。さらに教師主導から生徒主体の避難訓練，地域と連携した防災教育を進める必要がある。 ・外部講師による健康講話や保健学習を実施し，健康教育の推進を図った。家庭や関係機関との連携が課題である。	4　学校の安全管理及び健康教育の充実	⑫　学校の施設設備，器具用具等の安全点検の充実と４Ｓ（整理・整頓・清潔・清掃）の徹底 ・トイレ・更衣室の清掃 ⑬　地域と連携した防災教育の推進（学校防災連絡会議，避難訓練の充実） ⑭　危機管理ﾏﾆｭｱﾙ（危険等の発生時対処要項）による研修の充実 ・アレルギー対応等 ⑮　健康教育の充実 ・計画的な保健学習 ・家庭や関係機関との連携	A
・「光陽祭」では，「for one's smile ～みんなとわたし～』のテーマのもと，生徒実行委員を中心とした光陽祭（産業祭+文化祭）を実施した。書き損じハガキを集め，社会貢献活動を行った。 ・学校行事として，歩く会，保護者会としてのわくわくスクールディの開催，合唱コンクールやダンス選手権などのクラスマッチシリーズ実施し，保護者へ生徒の教育活動の理解と関心を高めることができた。保護者会参加率のさらなる向上が課題である ・情報発信し，広く本校の教育活動の理解啓発を積極的に行っていく必要がある。 ・ＫＯＵＴＯＫＵマルシェを開催し，生徒の製作品を販売活動を行うことにより，地域への理解啓発をすることができた。	5　地域に開かれた特色ある学校づくりの推進	⑯　オンリーワンの取組の充実 ・修学旅行の見直し ・歩く会・光陽祭・マルシェ ・集団行動・フラッグ等 ⑰　交流及び共同学習の充実 ⑱　情報発信の充実 ・学校説明会，見学会等の充実 ・ホームページの充実 ・保護者会の充実　※保護者会の参加率（H28：78%→H29：85%）	A
・経営企画会を学校運営の基軸として火曜日，木曜日，週２回開き，諸課題について教頭・教務主任・副教務主任・寮務主任・学部主事・学年主任から意見を聴取し，組織的な学校運営を行っている。ＰＤＣＡサイクルによる見直し改善が課題である。 ・危機管理の観点から職員室入口に職員の動静を確認するボードを設置し，リアルタイムに所在が把握できるようにした。 ・コンプライアンス委員会を開催するとともに，学年単位での研修会を実施するなど服務規律の確保に努めた。	6　効率的な学校運営のための見直し・改善	⑲　経営企画会，運営委員会を中核とした学校運営の充実 ⑳　PDCAサイクルによる見直し改善 ㉑　コンプライアンス推進委員会の充実 ㉒　定時退勤日の推進(月1回)	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		課題及び次年度への改善策
教務部門 教務部	効率的な学校運営のための各部門の連携	経営企画会での検討と実施，部門間の連携,早期立案のための業務進行管理　⑯⑲⑳㉑㉒	B	A	(課題) 学習内容や各行事内容の見直し・充実。 （改善策） 生徒の適切な実態把握と前年度の反省を生かした行事の計画・立案。
	教育課程の実施，個別の教育支援計画・指導計画の見直しと活用	合理的配慮の研修をとおした教育支援計画等の見直しと活用，教育課程実施状況把握による教科用図書選定等を含めた教育課程の検討・編成　①②③⑤⑥⑦	A		
	各ビジョン実現ための各校務分掌部の組織的な連携	地域に開かれた学校づくりに向けた，各取り組みの充実と評価改善　⑯⑰⑱	A		
	学校の情報発信の充実，公正公平な入学者選考（指定教育相談と連動した効率的な入学者選考への取り組み）	本校の魅力を伝える工夫や対象者のニーズに応じた説明会の工夫と開催　⑱	A		
		指定教育相談における実態（学ぶ意欲，家庭の支援力）の的確な把握と適正な入学者選考の実施　⑱⑲	A		
総合 支援部	校内支援の推進	トーキングタイム，ランチタイム相談の実施　⑩ 校内支援会議の実施　関係機関との支援会議 生徒の実態把握のための標準検査の実施	B	B	(課題) 検査結果のフィードバック，トーキングタイム記録の工夫。 (改善策) 専門家を招いての知能検査の読み取り方の研修会の実施 記録用紙の簡略化。
	特別支援教育のセンター的機能の促進と充実	学校見学，コース体験　⑱ 専門家派遣事業	A		
	交流及び共同学習の促進	学校間交流，地域交流の内容の充実　⑰	A		
	特別支援教育に対する理解啓発	チャレンジスポットの計画，実施　⑰	B		
危機 管理部	地域と連携した防災教育の推進	地域と連携を図り，避難訓練，学校防災委員会の実施　⑬	A	B	(課題) マニュアルの充実。 (改善策) 定期的な避難訓練の実施。職員の動きの確認。
	防災管理の徹底及び組織活動の充実	マニュアルに基づいた避難訓練を計画的に実施し，マニュアル及び防災対策組織の見直しを行う　⑬⑭	B		
	整理・整頓・清潔・清掃の徹底	通年の職員清掃と安全点検の実施　⑫	B		
情報 メディア 部	校内ネット環境の充実	タブレット機器の活用　⑤	B	B	(課題) ICTの授業での活用。 (改善策) 授業で活用できるよう使い方などの確認及び研修の機会設定。
	ホームページの充実	学校ブログによる学校行事等最新の情報発信　⑱	A		
	教職員・生徒の情報機器の活用力向上	教員がコンピュータ，タブレットを授業で活用できるように支援　②	B		
		生徒が情報関係各種検定３級程度を取得することができるよう支援　⑤⑦	B		
	校務支援	共有データの書式の見直し・改善提案　⑳	B		
	情報セキュリティの向上	生徒・教員の情報モラル・セキュリティに対する意識向上のための研修　㉑	B		
教育指導 部門 学習 研究部	適切な生徒の実態把握による，特性や発達段階に応じた指導内容の整理と系統性を重視した年間指導計画の改善と内容の充実 教員の資質向上に向けた学校課題研究の推進	適切な生徒の実態把握(形成的評価・総括的評価･発達検査のみとり)。特性や発達段階に応じた指導内容の整理教科書などに基づいた系統性をもたせた年間指導計画の作成　②③ 生徒一人一人の特性や発達段階に応じた指導の充実　①②③	B	B	（課題） ジョブスタディでの学習を実践する場の拡大と授業づくりの工夫。 （改善策） 年間指導計画の様式検討。 学校課題研究の充実。
		年間指導計画及び個別の指導計画を有効活用した日々の授業と評価の連動　①③	B		
		「専門教科」「保健体育（体力作り・保健）」「英語」の授業づくりの推進　④⑤	A		
		校内における各種検定受検への挑戦や部活動における大会等への積極的，特別活動と連動した自主的な活動の推進な参加自主的案　④⑧⑨	B		
		授業力向上に向けた授業研究の実施 「専門教科」を実践の場とした「ジョブスタディ」の系統的な指導内容の検討　②③⑤	B		
	「専門教科」を「ジョブスタディ」で学んだスキルを実践する場とし，自立活動を視点から捉えた個々の課題に対し，生徒自身が主体的にアプローチする方法の研究	外部人材を活用した「専門教科」の充実 生徒個々の課題に応じた指導方法の検討 生徒の主体的な活動を促す実践方法の検討　①②③⑤	A		
	個別の教育支援計画や個別の指導計画を意識した授業実践（合理的配慮含む）と，通信票との連動における客観的評価方法の充実	各教科の目標と個に応じた目標設定との整合性と形成的，総括的評価を活用した評価　①②③ 記載内容の充実と各書式・運用における有効活用の場面や方法の検討	B		

就労 指導部	働き続けるための系統的・段階的な進路指導の充実	実習評価表の活用方法の工夫と学習研究部との連携 ③⑤⑥	B	B	（課題） 情報提供の方法について。 （改善策） ブログや進路だよりの発行，会議などでの情報発信。
		障害者雇用及び職業生活に関する情報整理と情報提供方法の工夫 ④⑤⑥⑧⑱	B		
		企業や関係機関と連携した職業教育の充実 ⑥⑦⑧	B		
	生徒一人一人の進路希望に応じた実習及び就労先の開拓	関係機関と連携した職場及び職域開拓 ⑦⑧⑱	A		
		企業情報の整理と情報提供及び活用方法の工夫 ⑦⑧⑱	A		
	卒業生支援の充実	卒業生の職場定着状況確認と関係機関との連携 ⑤⑧⑱	A		
保健 指導部	保健指導の充実	健康診断結果通知の工夫 ⑮ 傷病についてのリーフレット作成 ⑮ 保健指導用資料の工夫 ⑮ WBGT測定の実施，広報 ⑮ 健康・食事に関する特別委員会で情報交換及び対応の検討 ⑮ 食物アレルギー生徒への対応 ⑭	B	A	（課題） 健康診断の結果について，振り返る時間の確保。 ＷＢＧＴについて，生徒の意識の向上を図る。 （改善策） 養護教諭からの保健に関する呼びかけの機会の設定。 ＷＢＧＴについて，生徒も観測できるような測定器の検討。
	学校保健・食育委員会の充実	協議内容の検討，学校医との連携 ⑮	A		
	「健康･食事マニュアル」の活用	有効な活用 ⑭⑮	B		
	食育指導の充実	各種ランチの実施・献立の工夫 ⑮ （クラスランチ・スクランブルランチ・部活ランチ・青空ランチ，セレクト制，リクエスト献立，旬の食材の利用，地産地消の推進）	A		
		寄宿舎おやつチョイス制の実施 ⑪	A		
生徒 指導部	情報の収集，提供，共有と指導の一貫性を図る。	緊急に支援が必要な生徒への対応については，迅速に情報を収集，共有して対応する。 ⑱	B	A	（課題） 全学年対象の通学指導の充実。 各学年の問題や課題についての情報の共有。 （改善策） 年度初めに全学年で交通安全の意識を高める学習の実施。 定期的な部会の実施。
		反社会的行動等を起こした生徒には対応検討会議にて検討し，指導にあたる。 ⑫⑱ ・指導内容検討 ・解除テスト実施（合否） ・指導解除検討	A		
		学校生活のきまり等，マニュアルの配付，見直し ⑪⑫ インターネット接続機器（SNS)のマナー教室の実施	A		
	通学指導の充実	公共交通機関のマナー向上を目指した下校指導の実施 ⑱ 不審者等に対応した臨時下校指導の計画，実施 不定期の下校指導の実施（月に２回程度） 通学方法の検討会の実施	A		
渉外部門	計画的な委員会の開催	委員会開催の調整，各委員会の協議内容確認 ⑱	A	B	（課題） 保護者のＰＴＡ活動への参加率向上と保護者同士のつながり。 （改善策） 各委員会の事業内容の工夫と見直しの継続。保護者同士がつながりのもてる事業内容の検討。
		本部役員，学年委員，常設委員同士の連携及び情報交換 ⑱	B		
	ＰＴＡ事業内容の工夫と保護者参加率の向上	ＰＴＡ事業内容の工夫と参加率向上 ⑮⑱	B		
		ＰＴＡ行事のホームページ掲載等積極的な情報発信 ⑮⑱	A		
	茨特Ｐ連や茨知Ｐ連，全知Ｐ連や関知Ｐ連等研修会への参加と報告及び情報交換	ＰＴＡ諸団体行事や研修会等への計画的な参加と報告及び情報交換 ⑱	A		
舎務部門	学校や家庭と協力しながら生徒の個性を適切に把握する。	個別の指導計画（自己管理能力評価票）を作成し，学校・家庭と連携した指導・支援に努める。 ①⑪	B	B	（課題） 日常生活と学習・体験活動のバランス。 （改善策） 寄宿舎生活の中で，生徒が自由に使える時間を確保した上で，学習・体験活動を計画していく。
	自治会活動をとおして，生徒の共同・協働活動の充実を図る。	生徒のニーズに即した行事及び活動内容の見直しを図る。 ⑨⑳	B		
		体験活動や生徒同士が協力して活動できる場面を増やし，協力する心や思いやりの心を育てる。⑧	A		
	自己管理能力の向上及び定着を図る。	マイタイム，グループホームタイム，アパートタイム，生活スキル検定,ウィークエンドサポートへの生徒の主体的な取り組みを支援するとともに，コミュニケーション能力評価票を活用し，生徒の特性に応じた指導や支援の手だてを工夫する。 ⑪	A		
	職員研修の充実を図り，さらなる専門性の向上を目指す。	継続的に職員研修を実施し，指導員としての専門性を高める。 ①⑭	B		
	生徒の心の動き・変化等を適切に把握し，生徒の心に寄り添った指導・支援に努める。	連絡会議や日々の申し送り等におけるケース会議を充実させ，全ての指導員が生徒のケースや支援方法について共通理解できるよう努める。 ①⑩	B		
事務部門	施設の安全と環境美化への取り組み	施設巡回・・定期的な巡回を行うことにより，危険箇所の早期発見・早期改修を実施する。 管理委託・・大規模設備の管理委託により，教育環境及び住環境の適正な管理・補修に努める。 校内美化・・植栽の手入れや除草等を年間計画で行い，年次計画をもって芝生の再生に努める。⑫	A	B	（課題） 予算管理の適正化。 （改善策） 教室の冬季暖房を従来の重油から空調に変更し試行を行った。まだ，結果は出ていないものの，データの蓄積には役立つので，来年度に向けた検討。
	環境負荷の少ない社会への取り組み	グリーン購入に該当する物品の積極的な購入・・・茨城県環境保全率先実行計画を推進するため，環境負荷の低減を考慮した物品購入をできる限り行なう。 節水対策・・職員の節約意識向上及び日々の使用量を確認することにより漏水の早期発見を行う。前年度比減少を目指す。 節電対策・・冷暖房の適正な温度管理や照明のこまめな消灯により基本料金を抑え，前年度比減少を目指す。 ⑫⑳	B		
	予算管理の適正化	運営費節約・・各種物品の在庫確認を徹底や，学年・校務分掌からの物品購入の集約化を通じ，一般需要の節約を進め，教授用品の充実や必要に応じた予算配分を行い，予算の有効的かつ適正な執行に対応する。 燃料費対策・・冬季の暖房時間の見直しと適正な温度管理を行い，暖房用燃料を節約する。 修繕料対策・・修繕箇所，簡易な破損状況に応じて職員による修繕を実施し，経費を節約する。⑳	B		
１年	習熟度別学習をとおして基礎的学力の定着を図り，達成感や自己肯定感を育てる。	板書や発問の仕方，ワークシート等を工夫し，授業内容の充実を図ることで，「できた」「わかった」という場面を数多く設定する。 ①②③④⑦	B	B	（課題） 自己理解と課題の意識。 （改善策） トーキングタイムでの聞き取り内容の活用とジョブスタディの授業の充実。
	体験活動をとおして社会人・職業人としての態度や規範意識とともに体力の向上を図る。	校内実習やデュアル型現場実習，短期集中型現場実習などの働く体験の中から，社会人・職業人に必要な態度や規範意識の大切さを学ぶ。 ⑥⑧	B		
	３食の食事をとおして，好き嫌いなく，残さず食べる習慣を身に付け，体力と共に心の安定を図る。	食べられる量を知り，完食できた体験を積む。残さず食べることを賞賛し，食べることの大切さを知ることができるようにする。（偏食への指導に努める） ⑮	A		
	寄宿舎や家庭との連携を深め，生徒の実態・課題の共通理解をもち，同じ視点で支援をする。	個別面談，学年便りの内容の充実を図り，家庭との連携を密にする。 寄宿舎のフォーカスデータシートを活用し，課題の共有化を図るとともに，具体的な支援方法を確認し合う。 トーキングタイムを実施し，生徒の実態把握に努め，共通理解のもと支援にあたる。 ⑩⑪⑱	A		
２年	自己理解を育て，自主的に課題解決に取り組み，社会人として必要な基礎・基本となる学習内容の定着を図る。	ジョブスタディをとおして，自己理解を促進し，自らの課題を克服できるようにする。 習熟度別グループの学習をとおして，生徒の実態や課題に応じた学習が展開し，自己肯定感や自己有用感を育てるとともに，自律心や協調性を身に付ける。 ①②③④⑦	B	B	（課題） 職業人として必要な，健康な体と心の安定の定着。 （改善策） 日常生活の中で定着を促す支援の計画と実施。
	集団生活における好ましい対人関係を養う。	トーキングタイムを実施し，生徒の心身の状態を的確に把握し，指導に生かす。 ⑧⑩⑪	A		
	職業生活に必要な知識・技能・態度を身に付ける。	現場実習をとおして，職業適性や課題を明確にし，個々に応じた進路指導に努める。 ⑤⑥	B		
	食事をとおして，好き嫌いなく，残さず食べる習慣を身に付け，体力と共に心の安定を図る。	食べられる量を知り，完食できた体験を積む。残さず食べることを賞賛し，食べることの大切さを知ることができるようにする。（偏食への指導に努める） ②⑮	A		
３年	働き続けるために必要な知識及び技能，態度を身に付ける。	現場実習やジョブスタディをとおして，職業人としての意識付けを行うと共に新しいことへ挑戦する心，働き続けるための知識や技能，態度を学ぶ機会を設ける。 ②③④	B	B	（課題） 働き続けるための心と体の健康。 （改善策） 働き続けるための支援内容の保護者との共有。
	トーキングタイムを計画的に実施し，生徒個々の支援内容を明確にし，より的確な支援を行う。	トーキングタイムの記録をもとに，支援の必要性のある生徒に対しての支援内容や支援方法を学年会や校内支援会議で検討し，全職員で指導していく。 ⑨⑩⑫	A		
	社会自立に向けた基礎的スキルの向上を図る。	寄宿舎と連携しながら，アパートタイム，グループホームタイムを有効活用することで自己管理能力を高め，社会自立に向けた基礎的スキルを身に付ける。 ⑧⑩⑬	B		
	働くための健康管理・体力の維持に必要な食事を考え，偏食のない食事をとる習慣を身に付ける。	食べることの大切さを知り，自ら健康管理・体力を維持するためにバランスのよい食事をとる習慣を身に付ける。 ②⑮	B		